

エアコン1台でどこまであたたかい？！

空気の動きを設計した 無添加住宅

京都市右京区
新築一戸建て

-コンセプト-
「コストを意識したパッシブ型温熱設計」

工事内容

冬場の光熱費を抑えるために窓を増やし、西日をあえて活用しエアコン1台で過ごせる日を増やす計画に。
家全体の空気の流れを設計し、全部屋へ暖気が行き渡ります。
夏は中庭から流れ込む風が室内に溜まった熱気を外へ排出する空気の流れをつくりました。

工事期間

令和2年春～秋

金額

70～80万円/坪



無垢材や畳といった材質によって体感温度が上がり、
エアコンの常時低温度は低めでも心地いい空間が実現。



中庭の窓を開けると空気が流れ込み、夏は冷えた涼しい風を感じられます。
対面にも窓を設けているので、家中を空気が通り抜けるように計画しています。



夏の日射を遮るために南西面のデッキの頭上に大きく屋根掛かりを取りました。昔ながらの暑い京都の夏をしのぐ方法の一つです。
室内の天井と軒裏がそろっているので繋がりがでて見た目にも美しい仕上がりです。

光熱費の中で最もお金がかかるのが冬場の暖房費。

せつかくの暑い西日を冬場に活用しない手はない！と、西側にたくさん窓をご用意されたM様。

また、その暖気が家中に回るよう、吹き抜けを取り、ファンを設置し、建具も減らした設計に。

寒い日や天気が悪い日はエアコンの助けが必要ですが、良く晴れた日は床暖房も切ってしまうくらい暖かいです。

西日が入るといことは夏場が地獄なのでは・・・

と誰もが心配になりますが、川沿いで隣家とも距離があるこの立地を利用しあえて直射日光の当たらない中庭の空気が室内に流れ込むように計画。

軒の出もしっかり出して西日をカットする工夫も凝らしています。